

“ふるさとちば”のための政策推進を



# 伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

## 佐倉市特集 6月県議会一般質問



# きれいな水、健全な生態系の再生を 「ふるさと」の恵みの水資源・印旛沼

ことし四月の千葉県議会議員選挙で、初当選を飾った伊藤昌弘県議(佐倉市選出)は、佐倉市議会議員二期、副議長も務め、また地元青年会議所や防犯・防災団体の役員も経験してきた若手政治家。

六月県議会では早速一般質問に立ち、美しい印旛沼の復活と関連河川流域の浸水対策、市内の交通渋滞解消のための国道二九六号・都市計画道路馬渡・萩山線バイパスの早期開通などを県当局に鋭く迫り、その都市づくり政策の確かさ、ふるさとを思う真摯な人柄が、県政界より高く評価されました。

### 汚濁防止にきわめて有効 高度処理型浄化

伊藤 印旛沼は、農業用水、工業用水、上水道、さらに内水面漁業に利用され、多くの県民にとってかけがえない恵みの沼である。しかし今日、周辺地域の都市化や産業活動などの影響を受けて水質汚濁が環境基準を上回り、上水道の水源としての湖沼では、全国ワースト1の水質となっている。また沼のある里山や合津の環境変化や外来種の放流により、多くの在来動物が減少するなど、自然環境は悪化が進んでいる。

伊藤 印旛沼は、周辺の環境や人々の生活を写す鏡であり、今こそ水質を浄化し、健全な生態系の保全、再生をめざさなければならぬ。そこで最初の質問だが、県はこれまで印旛沼の水質浄化について、どのような対策を進めてきたのか、今後の取り組みも含めて伺いたい。

### 県民が丸となって取り組み 印旛沼の水質浄化

伊藤 合併処理浄化槽のうち「高度処理型」は、チツソヤリンの除去にきわめて有効と聞く。ところが、その普及率はまだまだ低いようだ。印旛沼周辺における高度処理型合併浄化槽の設置率はどれくらいか。

環境生活部長 県としては、住民の理解、市町村の協力を得て「高度処理型」を普及していきたいと考えている。印旛沼水系では、平成十三〜十七年度の間に、合併処理浄化槽二千五百基に

たい。

知事 印旛沼は、千葉県民にとって、大変貴重な水資源である。その豊かな自然環境は、次世代にしっかりと引き継いでいかなければならないと考えている。水質浄化対策としては、二十年余にわたり「湖沼水質保全計画」に基づいて、下水道整備、合併処理浄化槽の普及に取り組んできた。また平成十六年には、行政・NPO・地域住民が連携

して水質の浄化に取り組む「印旛沼流域水循環健全化緊急行動計画」を策定し、湧水の復活や市街地にたまった汚れが降雨に伴って流出する「ファーストフラッシュ汚濁」の防止策を検討してきた。平成十八年度からは、水の浄化や生態系の再生のため、試験的に草を植えるなどの研究もしている。今後も、県民一丸となった水質浄化対策を進めていくつもりだ。

をすると同時に、住民が設置しやすくなるよう、積極的に利用しやすい補助支援をして欲しい。また、先程触れたファーストフラッシュ汚濁の対策として、道路改修、歩道の整備に際しては、浸透構造にすることもぜひ検討すべきと考える。

要望 高めるよう、県民に広く「高度処理型」のPR

### 伊藤まさひろ・PROFILE

#### 略歴

- 昭和30年12月25日 佐倉市に生まれる
- 昭和53年3月 日本大学法学部卒業
- 平成7年4月 佐倉市議会議員に当選(2期を務める)
- 平成19年4月 千葉県議会議員に当選

#### 現職

- 千葉県議会議員(総務常任委員)
- 自民党千葉県連組織委員会委員
- 広報委員会委員
- 佐倉市支部 幹事長
- 佐倉市表町防犯防災協会会長
- 佐倉青年会議所OB会会員

まちづくりに関する  
悩みごと、気軽に  
ご相談下さい!!

# 伊藤まさひろ 県議事務所

〒285-0811 佐倉市表町3-6-28  
TEL.043-485-8019  
FAX.043-486-1616

# 確かな都市政策を持つ地方政治家

佐倉市特集

6月県議会一般質問

## 伊藤まさひろ 県議



県議会の自席で再質問する伊藤まさひろ県議

### 印旛沼流域の治水プロジェクト

#### 行政、住民の意向反映が大切

##### 国の利根川整備計画

伊藤 現在県は、洪水防止策の一環で印旛沼をはじめ、鹿島川、高崎川など流入河川の改修を進めているが、国においても一部印旛沼に隣接する利根川の整備計画を策定中と聞く。この計画は、利根川下流部に位置する印旛沼や隣接する河川の治水にどのような影響があると考えているか。

国土整備部長 国が策定した「河川整備基本方針」では、利根川の洪水については、印旛沼を利用して東京湾に放流するための「放水路の建設」が提示されている。千葉県としては、この計画が印旛沼および流入河川の治水の向上に十分配慮された内容になるよう、また地元市町村や住民の意向が反映されるよう国に働きかけ

#### 雨水の貯溜施設四カ所設置

##### 高崎川の洪水対策

伊藤 私の地元・佐倉市内を流れる高崎川は、集中豪雨などにより浸水被害が多発している。印旛沼流域での洪水防止策として、雨水を貯溜浸透させるシステム

国土整備部長 雨水の貯溜・六ヶ日区間について、平成九年度から改修事業を実施しており、鹿島川合流点から市街地の楠木橋までの二ヶ日を重点区間とし、こ

#### 治水効果に配慮し早期完了へ

##### 高崎川の改修事業

伊藤 高崎川の河川改修は、どこまで進んでいるのか。今後の予定は？

国土整備部長 鹿島川合流点から市街地の楠木橋までの二ヶ日を重点区間とし、こ

### 機能的で快適な道路ネットワークづくり

#### 国道二九六号バイパスがキメ手

##### 慢性的交通渋滞

伊藤 国道二九六号は、匝瑺市から成田、佐倉市を経て八千代、船橋とを結ぶ広域的幹線道路だが、かつての成田街道の名残もあって、道幅が狭く曲がりくねっている。このため車の交通量の増加に対応できず、慢性的な交通渋滞を引き起こしている。

特に、京成ユーカーが丘駅周辺から勝田台駅周辺は深刻な状況であり、佐倉市上座地先から八千代市米本八千代バイパスの整備は、まさに緊急の課題といえる。

国土整備部長 ご指摘の佐

### 職員給与減額措置継続で論戦

#### 6月県議会自民党代表質問

改選後の6月県議会、最大会派の自民党代表質問に岡村泰明政調会長(四街道市選出、4期)が登壇、財政・成田空港問題、高齢者問題、医療、環境、新産業振興、教育など幅広い今日的な問題について質問、県の姿勢をただしました。

財政問題では、同議会に追加提案された県職員給与の減額措置の継続議案について、「6年間も職員に負担を課すことについて、どのように考えているのか」と質問。知事は「財政健全化に向け、さらなる行政改革に取り組みしていく必要がある。苦渋の決断」と理解を求めました。

また、平成18年度一般会計決算見込みでは、2月議会時の「取支均衡」から一転、28億円程度の赤字となる見込みとなりました。

羽田空港の国際化の進展に対する県の考え方は、今後「成田は国際、羽田は国内」の基本方針の堅持を強調。増大する首都圏の国際航空需要に対応するため、成田空港平行滑走路の北進整備を着実に進め、羽田と成田の有機連携強化が「唯一現実的な対応」と述べました。

### 混雑解消、事故防止に大きな役割

#### 県道佐倉―印西線バイパス整備

伊藤 次に都市計画道路馬渡―萩山線についてだが、県道佐倉―印西線の東関東自動車道佐倉インター周辺は、工業団地などへの大型車両が頻りに通行し、自転車や歩行者にとって、きわめて危険な状況である。また佐倉市内の市街地では、交差点や踏切での交通渋滞が慢性化しており、市民生活に多大な支障が生まれている。

これら市民の悩みを解消するキメ手は、県道佐倉―印西線のバイパス建設である。この都市計画道路馬渡―萩山線は、佐倉市をはじめ、北総地域を南北に縦断し、県道佐倉―印西線の渋滞や事故防止に大きな役割を果たすと考えられる。そ

の進捗よく状況をご説明いただきたい。

国土整備部長 県道佐倉―印西線の佐倉市街地の交通混雑を緩和するため、同市田町地先の国道二九六号交差点から岩名運動公園までの約一・五キロメートルについて、バイパス建設を進めている。平成十八年度末の進捗よく状況は、用地取得約五五％、工事費を含めた全体で二二％。現在、岩名運動公園側約五百メートルを優先して整備に努めている。

**要知** 都市計画道路馬渡―萩山線の佐倉市大塚地先から国道五一号までの約一・一キロメートルについては、県事業として整備を急ぐよう強く要望する。